

健苗育成で高品質米生産のスタートダッシュ！

昨年の上越東地域の米の作柄は、品質はやや不良～並、収量は少となりました。平成31年産米の高品質安定生産に向け、基本技術を確実に実施しましょう。まずは、健苗（規格苗）移植で初期生育を安定させましょう。

育苗のポイント

- ・健苗（規格苗）の目安は、稚苗 2.0～2.3 葉、中苗 3.5 葉です。
- ・葉齢の進んだ老化苗は、初期生育不良の要因となります。規格苗が移植できる育苗計画を立てましょう。

1 作業のめやす 移植日から逆算し、浸種日等を設定。長い育苗期間は老化苗の原因です！

つきあかりはできるだけ早植え、五百万石・こしいぶきなどは5月10日頃までに植え、コシヒカリBLは5月10日以降の移植としましょう。健苗（規格苗）が移植できるように播種計画を立てましょう。

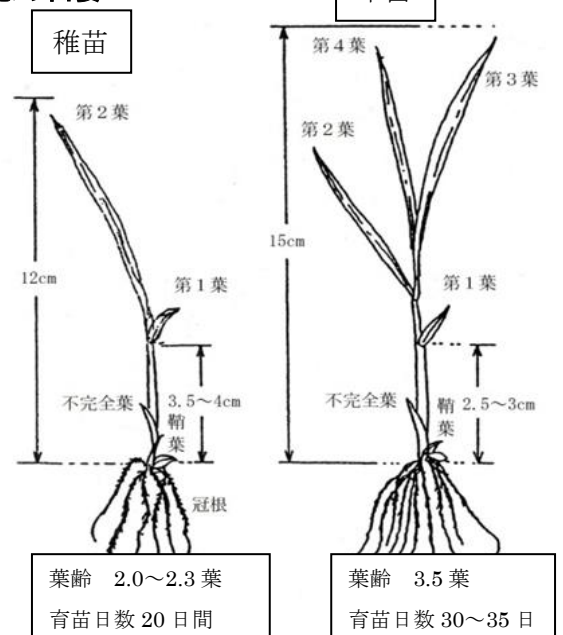
表 育苗スケジュールの例（5月13日移植の場合）

育苗様式	育苗日数	浸種	催芽	播種	田植え
稚苗 ハウス	20日	(例) 4/11 (10日間)	→ 4/21	→ 4/23	→ 5/13
苗 露地プール	25日	(例) 4/6 (10日間)	→ 4/16	→ 4/18	→ 5/13
中苗	30～35日	(例) 4/1 (10日間)	→ 4/11	→ 4/13	→ 5/13

2 種子消毒 温湯のみでは防除効果は不十分です！

- 近年、温湯消毒の普及に伴い、褐条病（葉鞘がすじ状に変色し枯れる）、ばか苗病（苗が異常に徒長）などの発生が見られます。
- 温湯消毒の単独処理では、防除効果が十分に見られない場合があるため、タフブロック（微生物農薬）との体系防除を実施しましょう。
- 細菌性病害（褐条病や籾枯細菌病、苗立枯性細菌病等）に対しては種子消毒だけでは十分な効果が得られないことが多いため、カスミン粒剤・カスミン液剤との体系防除を実施しましょう。

理想の苗姿



3 浸種 初日の水温は10℃以下にしないこと！

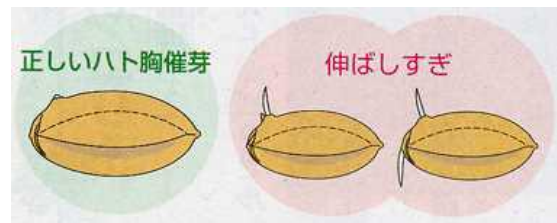
- 本年の種子の休眠の深さは、コシヒカリ BL は前年種子より「深い」、こしいぶきは「前年並」と推定されています。
- つきあかりは休眠が深い場合があるので、十分に浸種を行きましょう。（特に浸種初期は水温 10～15℃を確保しましょう。）
- 浸種は必ず水道水か井戸水を用い、水量は種子 1 kg に対して約 3.5 リットル確保しましょう。
- 浸種は発芽揃いを良くするため、浸種開始時から水温 10℃～15℃に保ち、積算水温は 100℃をめやすに終了しましょう。特に浸種初日の水温は重要で、10℃より低い水温では発芽揃いを悪くするので注意しましょう。
- 薬剤の消毒効果を高めるため浸種の前半の4日間は水を入れ替えないようにしましょう。

○温湯消毒の場合は浸種開始から1～2日で水の入替えを行きましょう。

4 催芽 ハト胸状態で終了。芽を伸ばしすぎない！

○30℃で1～2日、80%以上がハト胸になった状態が終了です。

○30℃を超えると、細菌性病害が出やすくなります。



5 播種 薄まきで、健苗を育成しましょう！

品 種	育 苗 様式	1 箱当たり播種量	
		乾 粃	催芽粃
コシヒカリ、 こしいぶき	稚苗	130～140g	160g～175g
	中苗	80～100g	100g～120g
つきあかり、 みずほの輝 き	稚苗	145～155g	175g～190g
	中苗	90～110g	110g～135g



催芽粃 120g

160g

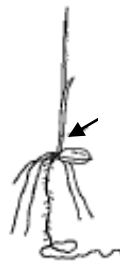
180g

6 育苗管理 緑化期はヤケ苗に注意！こまめに温度を確認しましょう。

(1) 出芽期

○加温出芽の場合、30℃、2～3日 で出芽長が0.5～1.0cm になれば出芽は完了です。出芽長が長いとその後も徒長しやすくなるため注意が必要です。

○特につきあかりはメソコチルが伸びて根上がりしやすいので30℃、2～3日を守りましょう。



この葉鞘のつけねと幼根のつけねの間の部分をメソコチルと言います。

(2) 緑化期

○出芽直後の苗は、急激な気温の変化や強い光に弱く障害が起こりやすいので、特にこまめな温度管理が必要です。緑化には弱い光が適しているので被覆資材で遮光するとともに、20～25℃になるように保温します。

留意点

○出芽・緑化期の苗丈は苗質に大きく影響します。伸びすぎないように注意し、目標の苗丈に近づいたら被覆資材を除去しましょう。

○緑化期は苗ヤケになりやすい時期です。緑化中でも気温が高い日はハウスを換気を行い、必要に応じ被覆資材を除去しヤケ苗防止に努めましょう。

(3) 硬化期

○除覆後は、日中はハウスを開放し、苗を徐々に外気に慣らしていきます。

○日中は15～20℃を目安に管理します。晴天時にはすぐにハウス内が高温になるため早めに換気を行きましょう。

○かん水は、硬化前半は1日1回程度。後半は乾燥程度を見ながら1日2回、午後2時までに行います。移植1週間前からは、夜間もハウスを開放しますが、ムレ苗を防ぐため8℃以下にならないよう管理しましょう。